

# ROCKY-ICHIMARUと タイヤ加硫機用バルブ

タイヤの加硫では、圧力源や熱源として窒素や蒸気、温水などが用いられるため、その流体制御に用いられるバルブにとっては、高温高圧状態から負圧の状態まで様々な温度/圧力が高い頻度で繰り返し付加される過酷な使用環境となります。1978年の創業当時使われていたバルブは、シート面のすり合わせが必要なメタルシールが主流であり、メンテナンスには多くの手間がかかる一方で、気体のシール性能には問題がありました。自動機設計だけでなくバルブ設計にも精通していた弊社の創業者(写真1)は、この問題を解決するために、気体のシール性とメンテナンス性を両立させることができるソフトシールを用いることを考案し、さらに長年の製造現場でのテストを通じて、長期間シール性能を維持できる特殊なシート材質も開発しました。そして完成したのが第一号バルブです(写真2)。

このように、タイヤ加硫機用バルブとして長年の実地試験を通じて開発されたROCKY-ICHIMARU製バルブ(以下、『ROCKYバルブ』と呼ぶ)は、長期間シール性能を維持してタイヤ加硫品質を守るバルブとして、多くの使用実績を通じて認知されるようになり、現在では世界中のタイヤ工場のタイヤ加硫機で使われています。また一方で、現地での部品交換などのメンテナンスにおいても、容易に分解組立ができるように設計されています。さらに、カタログに記載された標準仕様のバルブだけでなく、世界中のお客様の製造現場での要求仕様や使用方法に応じた、様々な特殊仕様のバルブを提供しています。

ROCKYバルブは、タイヤ加硫機が稼働している製造現場を革新してきましたが、今後ROCKY-ICHIMARUでは、バルブの製造を通じて得られた知見をもとに、バルブ単体だけでなく配管を含めた配管ユニットとして、さらにはタイヤの製造技術や製造現場の改善や革新に向けた機器の開発を行い、お客様に新たな価値の提案を進めてまいります。



写真1 創業者

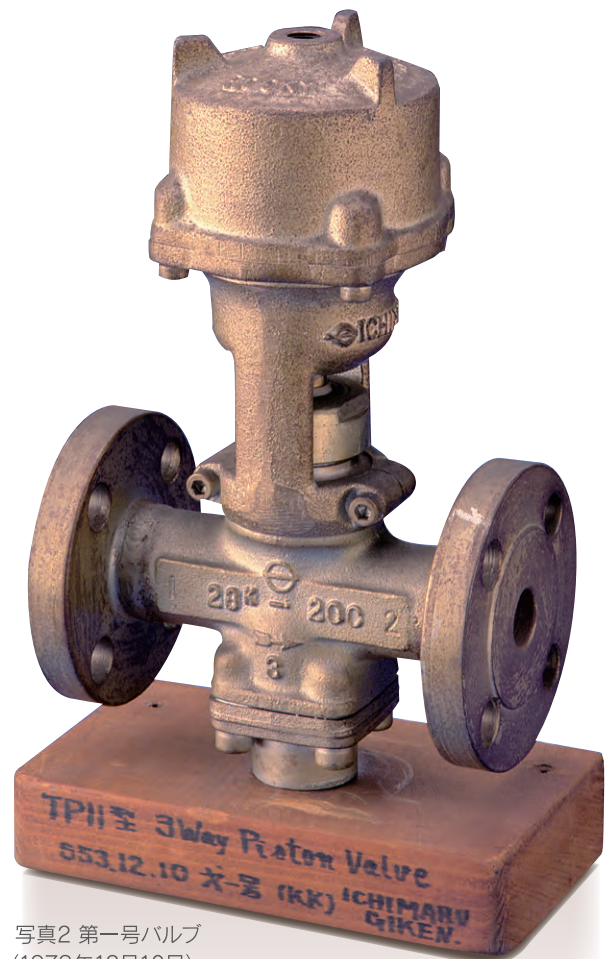


写真2 第一号バルブ  
(1978年12月10日)